

## 令和 3 年度ユニバーサルデザインに関する職員アンケート調査結果について

### 1 背景・目的等

平成 29 年度から実施している、ユニバーサルデザイン（以下「UD」）に係る職員の認知度を把握する調査によると、UD に対する認知度は平成 29 年度が 54.9%、平成 30 年度が 67.0%、令和元年度が 75.9%と着実に向上している。

この結果から更なる認知度向上および UD の実践を図るため、区では庁内向けの普及啓発活動や研修等の事業を行ってきた。

今般、こうした事業に対する評価のほか、実施した事業が職員の認知度等に与えた影響や実践に向けての課題について把握し、今後の事業の参考とするため、次のとおり調査を実施した。

### 2 実施概要

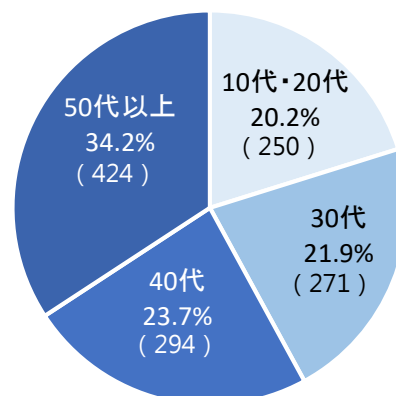
項目	内容
タイトル	ユニバーサルデザインに関する職員アンケート
対象	全職員（約 3,500 人） ※回答数 1,239
配付・回収方法	desknet's NEO アンケート機能による WEB 回答及び交換便での配布による書面回答
調査期間	WEB 回答：令和 3 年 10 月 7 日（木）～ 10 月 27 日（水） 書面回答：令和 3 年 10 月 7 日（木）～ 10 月 27 日（水）
実施主体	福祉部障がい政策課ユニバーサルデザイン推進係
調査票構成	【問 1】年代 【問 2】職層 【問 3】職種 【問 4】UD の認知度 【問 5】UD を知った主なきっかけ 【問 6】多様な人に対して配慮した経験の有無 【問 7】UD の実践経験の有無 【問 8】特に配慮したことがない理由 【問 9】UD を実践するために知りたいこと 【問 10】UD に関する取り組みで参考になったもの 【問 11】自由記述

### 3 集計結果概要

#### (1) 属性

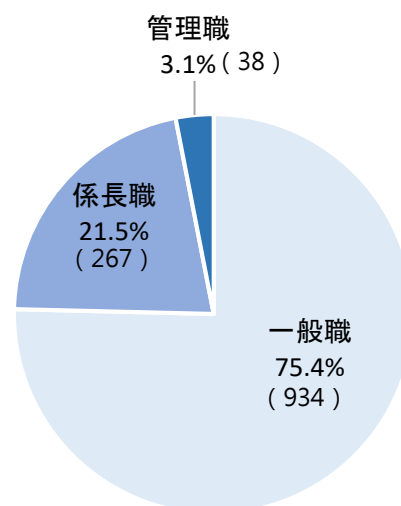
##### ① 年代

「50代以上」と回答した人が34.2%と最も多く、  
「40代」23.7%、「30代」21.9%、  
「10代・20代」20.2%と続いています。  
※グラフのカッコ内は回答数。以下同じ。



##### ② 職層

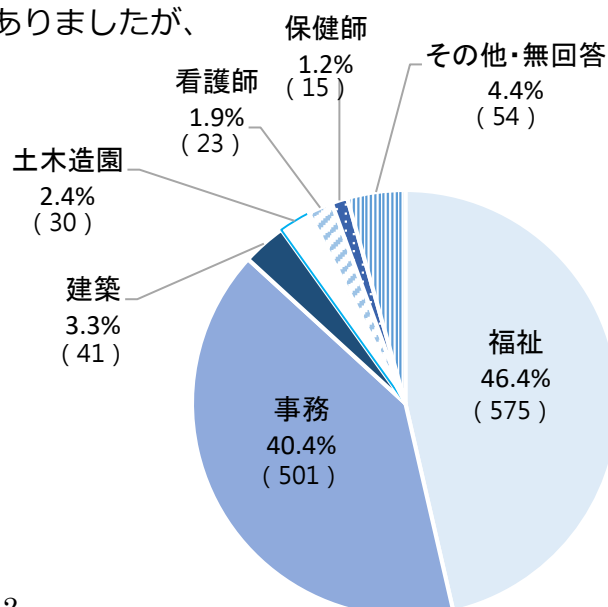
「一般職」と回答した人が75.4%と最も多く、  
「係長職」21.5%、「管理職」3.1%と  
続いています。



##### ③ 職種

「福祉」と回答した人が46.4%と最も多く、「事務」40.4%、「建築」3.3%、  
「土木造園」2.4%と続いています。

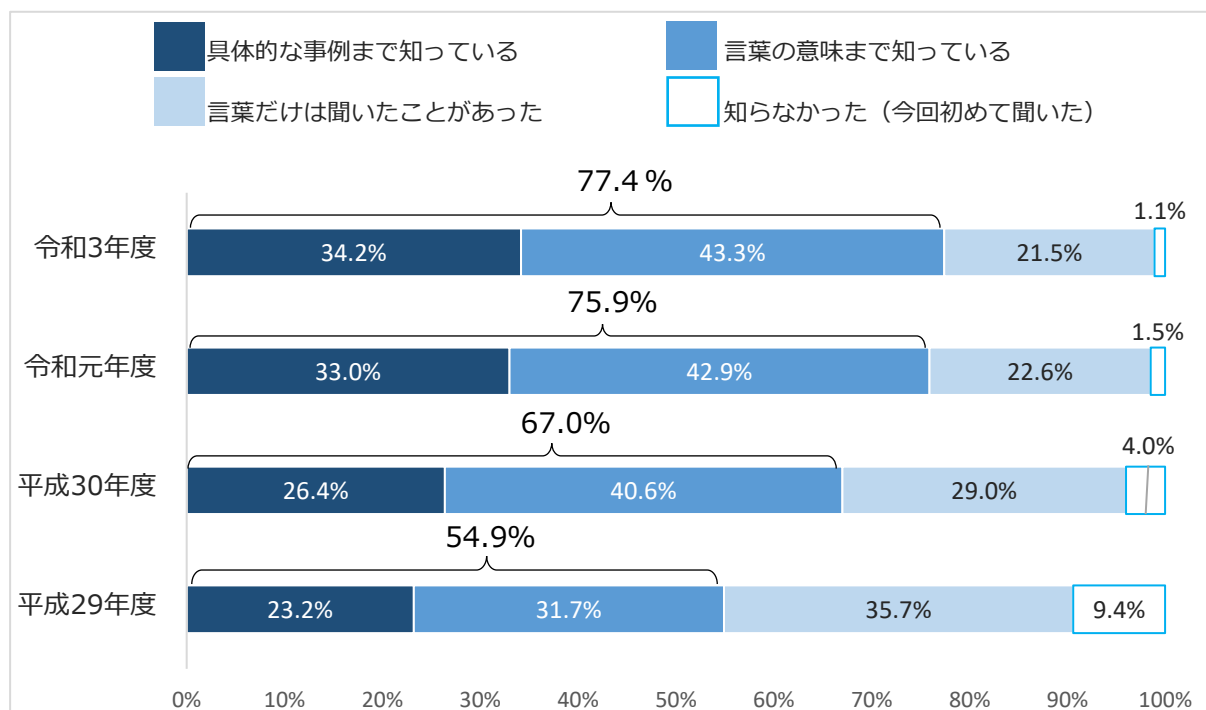
なお、全体では14の職種から回答がありましたが、  
クロス集計の際には、区職員において  
構成比の高い、区の主な職種である  
4職種を比較対象としています。



## (2) UDの認知度

### ① 回答内訳

○「具体的な事例まで知っている」または「言葉の意味まで知っている」と回答した人の割合は、77.4%であった。

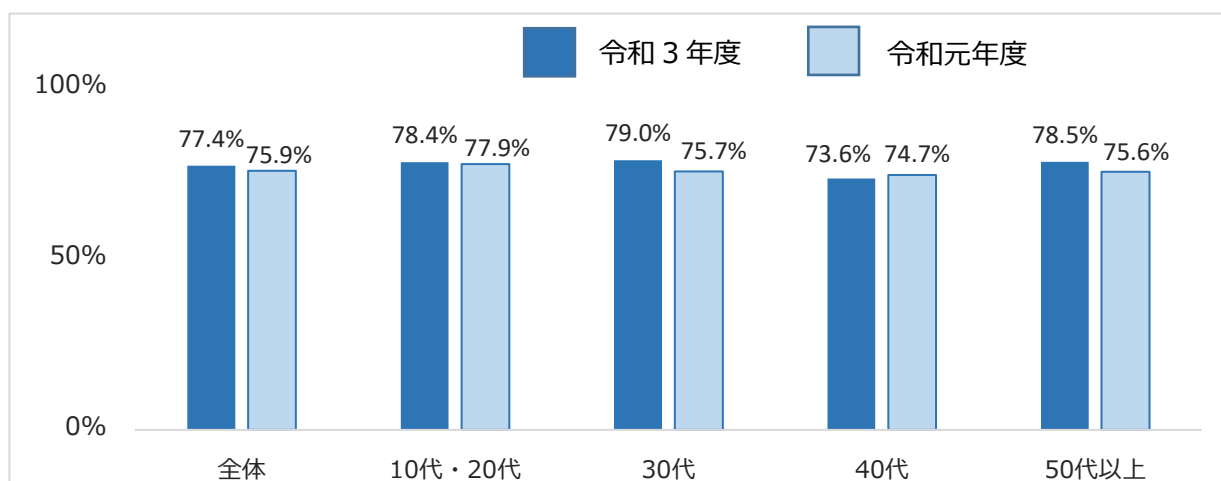


※単位未満を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致していない場合がある。  
 ※令和元年度の区民意識意向調査において「具体的な事例まで知っている」または「言葉の意味まで知っている」と回答した区民の割合は、30.6%であった。

### ② 年代別内訳

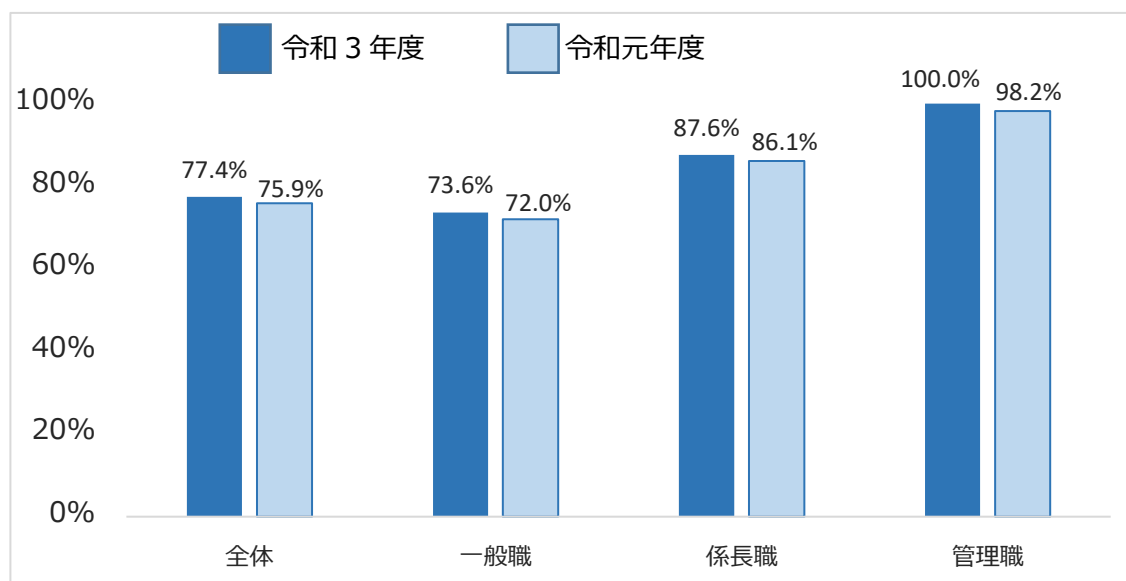
○「具体的な事例まで知っている」または「言葉の意味まで知っている」と回答した人の割合を、年代別に比較した。

○「40代」では1.1%減少したものの、その他の年代においては令和元年度の前回調査の割合より認知度が向上した。



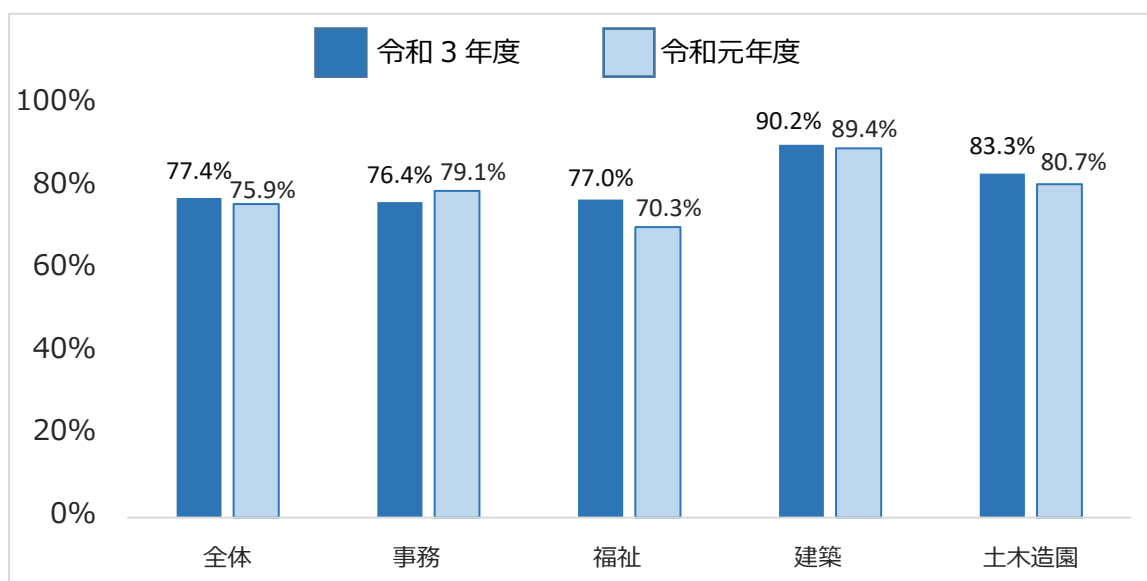
### ③ 職層別内訳

- 「具体的な事例まで知っている」または「言葉の意味まで知っている」と回答した割合を職層別に比較した。
- 「具体的な事例まで知っている」または「言葉の意味まで知っている」と回答した人のうち、全体よりも高い割合の職層は、「管理職」：100%、「係長職」：87.6%となった。
- すべての職層において、令和元年度の前回調査の割合よりも高くなった。



### ④ 職種別内訳

- 「具体的な事例まで知っている」または「言葉の意味まで知っている」と回答した割合を、職種別に比較した。
- 前回調査と比較して、特に福祉 (77.0%) の認知度が 6.7% 向上した。また、全体と比較して 0.4% 差となった。



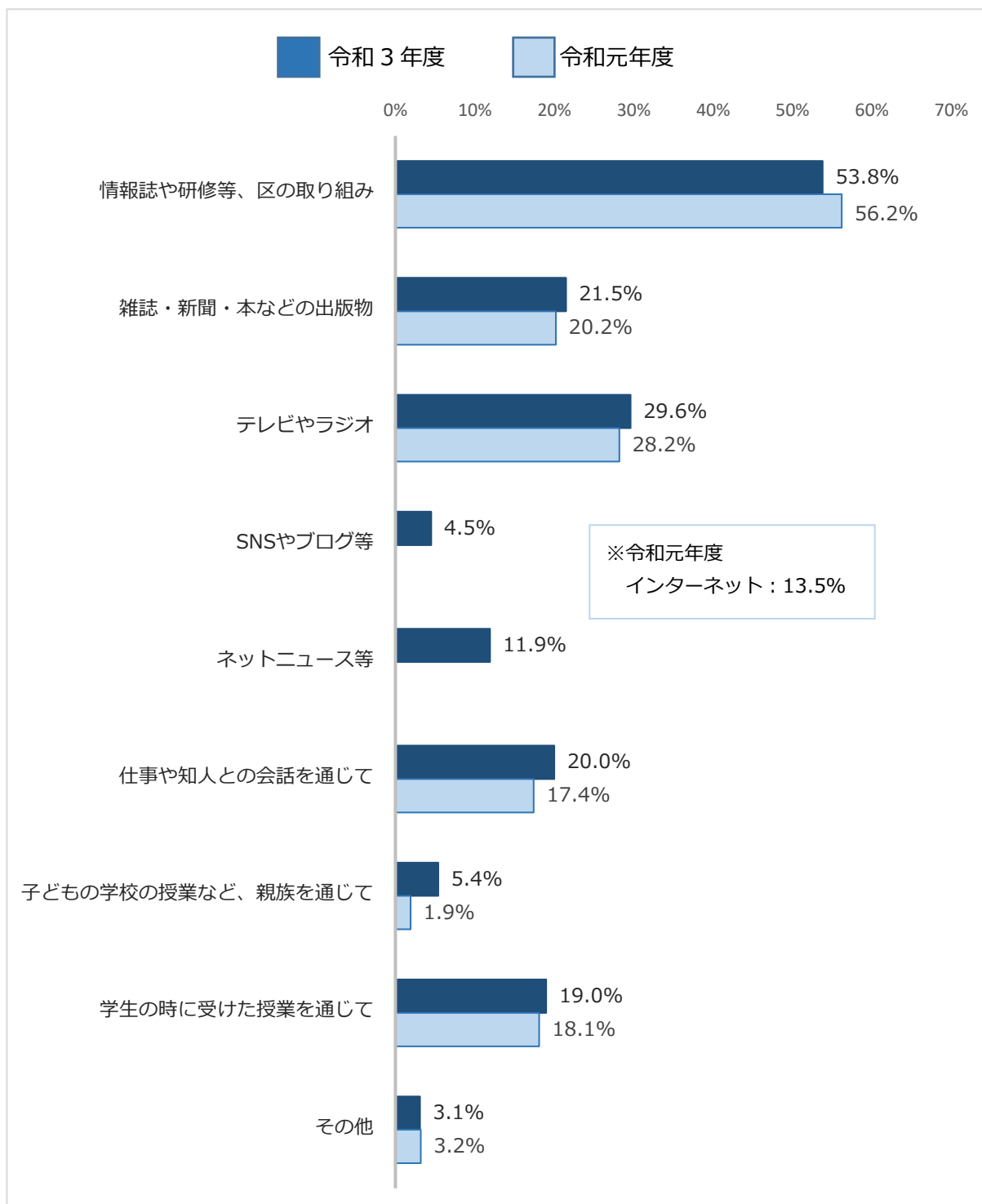
※福祉：(福祉・保育士・児童指導) 土木造園：(土木技術・造園技術)

※回答数が少ない職種については省略している。以下同じ。

### (3) UDを知ったきっかけ(回答は2つまで)

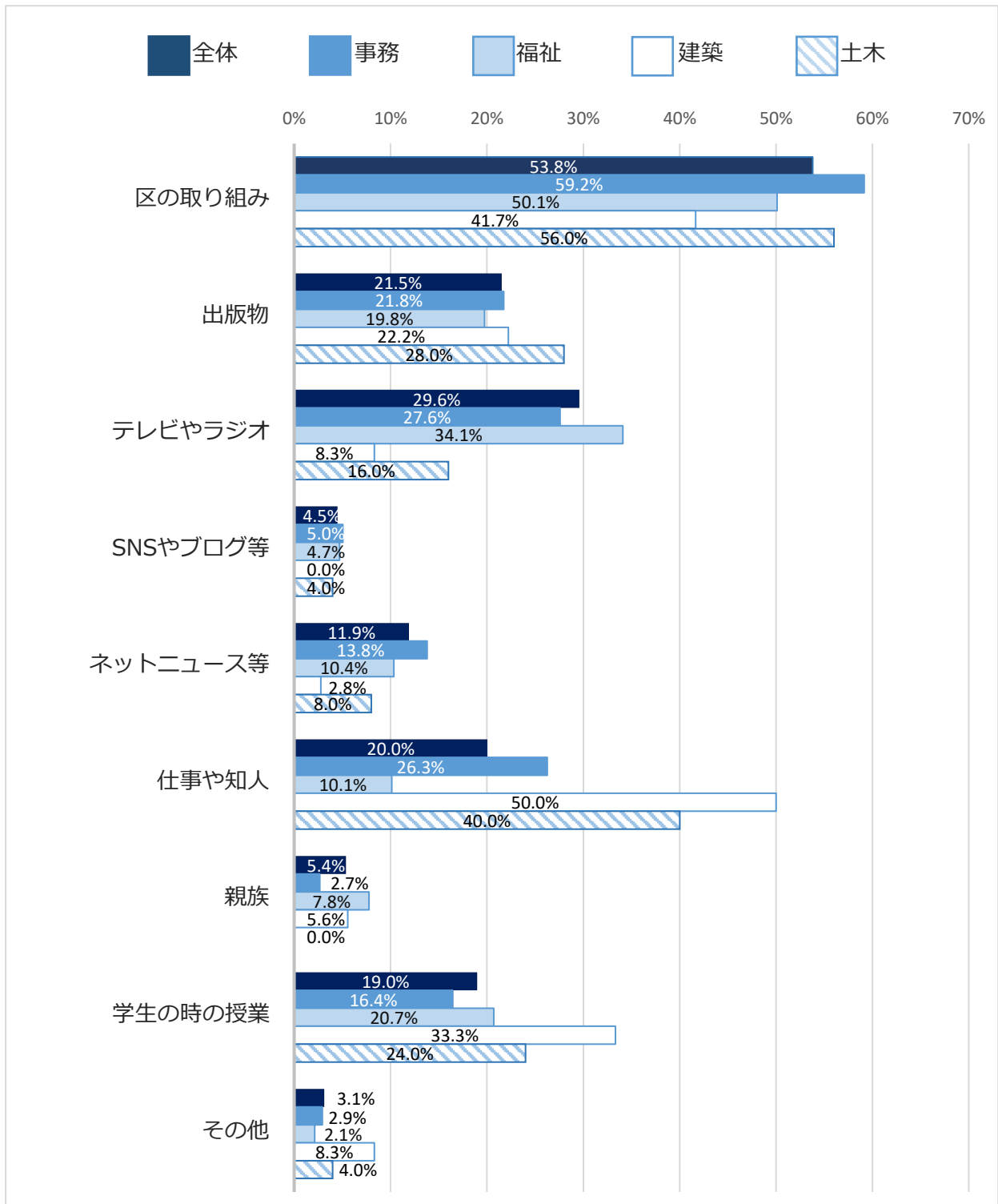
#### ① 回答内訳

- (2)UDの認知度において、「具体的な事例まで知っている」または「言葉の意味まで知っている」と回答した人に対し、知ったきっかけを確認したものです。
- 「区での取り組み」と回答した人の割合は53.8%と最も高く、「テレビやラジオ」が29.6%、「出版物」が21.5%と続いた。



## ② 職種別比較

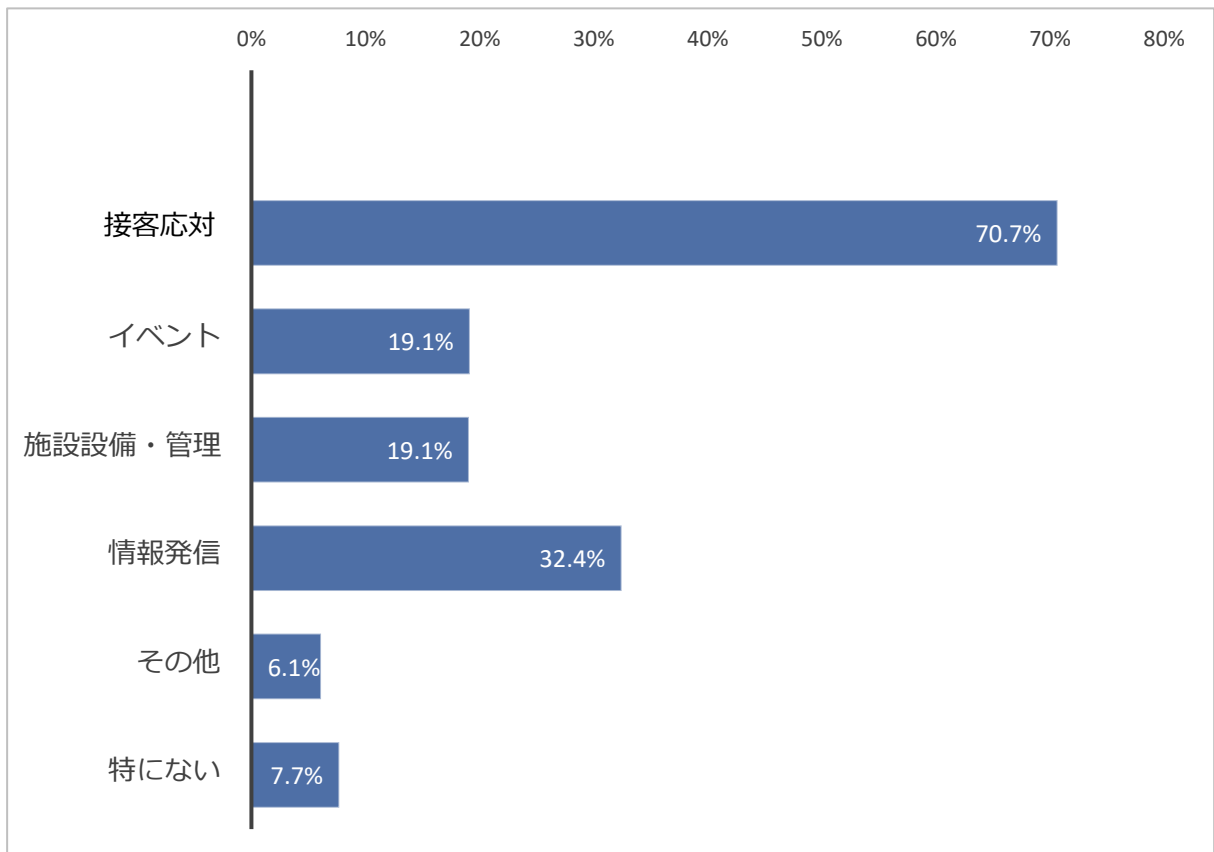
- 「事務」「福祉」「土木造園」において、最も高い回答は「区の取り組み」（事務：59.2%、福祉：50.1%、土木造園：56.0%）となった。
- 「建築」においては、「仕事や知人」が50.0%と最も高い回答になった。



#### (4) 多様な人に対して配慮した経験の有無 (複数回答)

##### ① 回答内訳

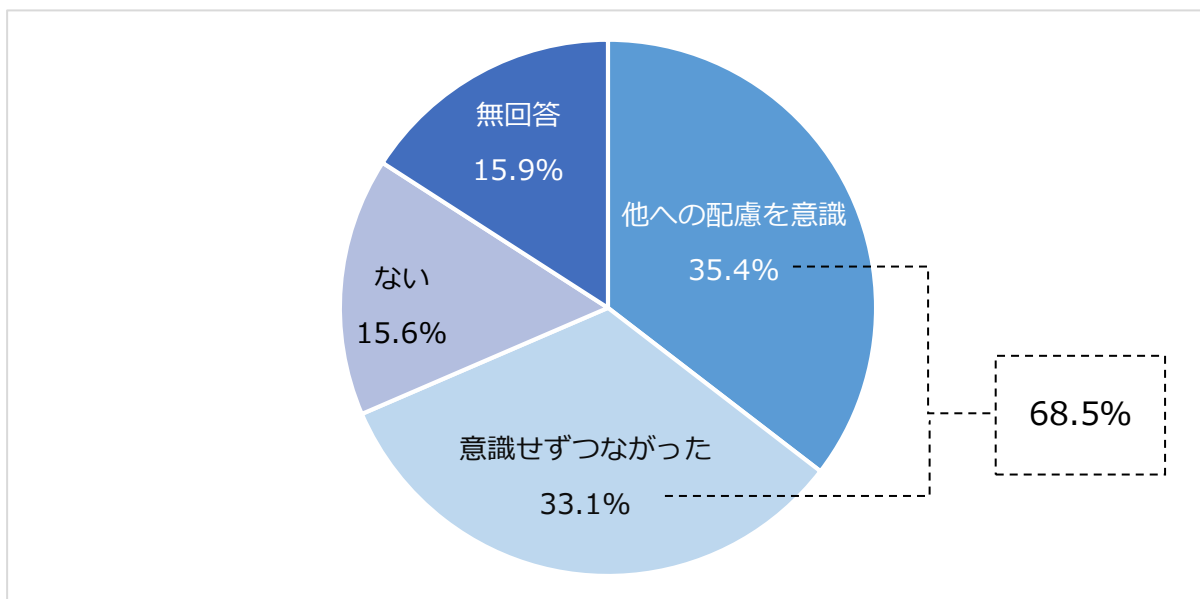
- 「接客対応」と回答した人の割合が 70.7%と最も高く、「情報発信」が 32.4%、「イベント」・「施設設備・管理」が 19.1%と続いた。
- 「特に配慮したことがない」と回答した割合は 7.7%であった。



#### (5) これまで行った多様な人への配慮において、UDの視点を持って行ったかを問う設問

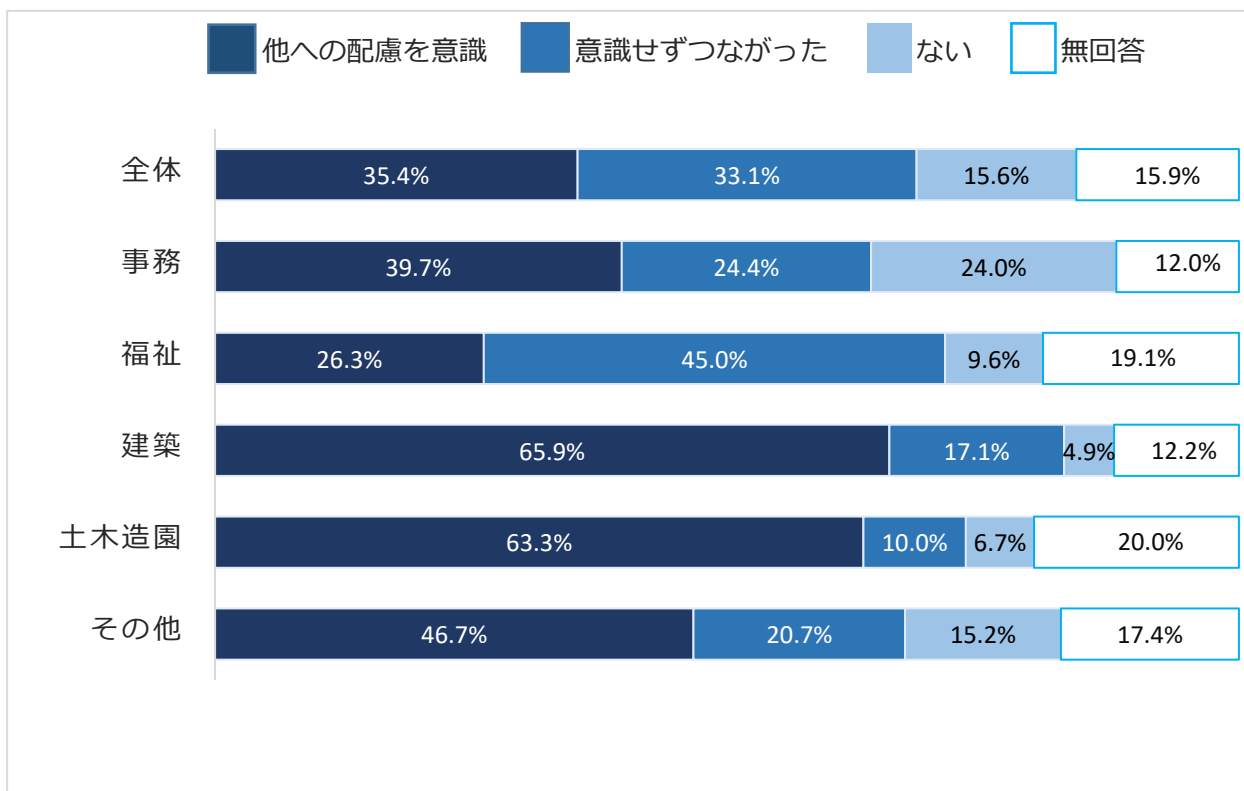
##### ① 回答内訳

- 前の問で答えた多様な人への配慮について、「他の人への配慮にもつながることを意識していた」と回答した人の割合が 35.4%となり、3分の1を超える人がUDの実践を経験しているという結果になった。
- 「他への配慮を意識」または「意識せずつながった」と回答した人が 68.5%となっており、3分の2以上の方がUDにつながる経験をしているという結果となった。



## ② 職種別比較

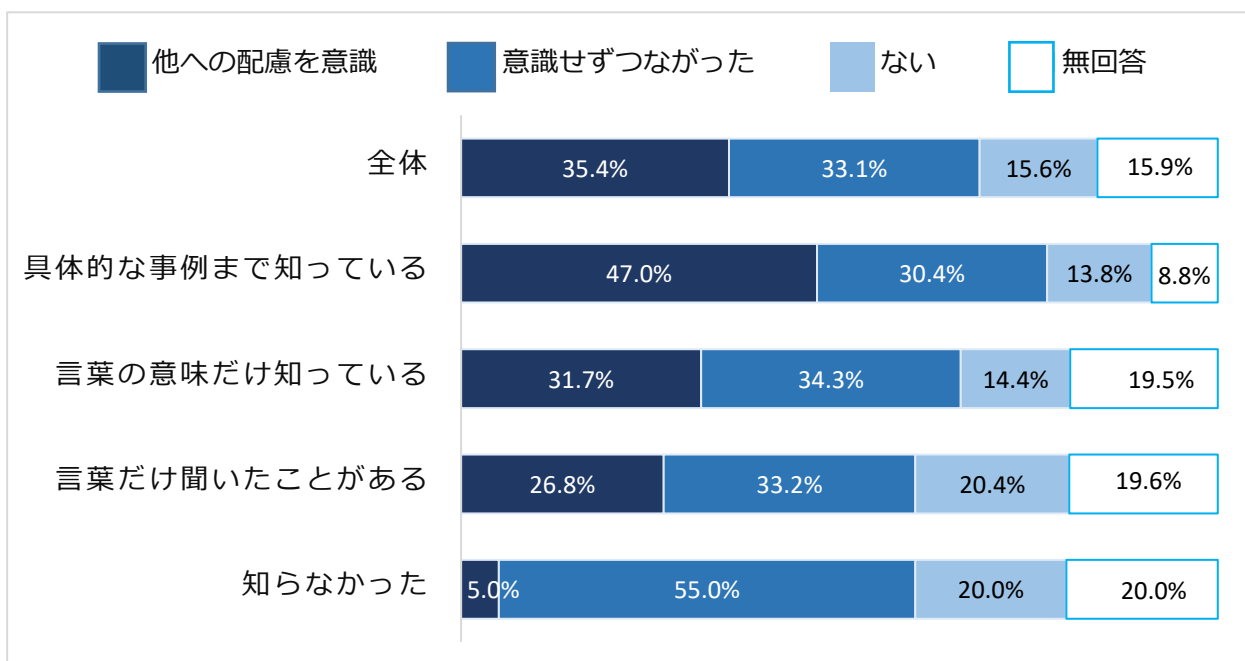
- 「他への配慮を意識していた」と回答した割合は「事務」：39.7%、「建築」：65.9%、「土木造園」：63.3%とそれぞれ全体よりも高い。特に「建築」「土木造園」については、全体よりも約30%高い割合となった。
- 「福祉」では、「他への配慮を意識していた」(26.3%)の割合が全体(35.4%)より9.1%低く、「意識せずつながった」の割合(45.0%)が全体(33.1%)より11.9%高い。





### ③ 認知度別比較

- 「具体的な事例まで知っている」と回答した人を見ると、「他の人への配慮を意識」が 47.0%と一番高く、全体の割合よりも高い。
- 「言葉の意味まで知っている」と回答した人を見ると「意識せずつながった」が 34.3%と、全体の割合よりも高い。
- 「言葉だけは聞いたことがあった」と回答した人を見ると、「意識せずつながった」が 33.2%、「意識したこともつながったこともない」が 20.4%と全体の割合よりも高い。
- 全体を通してみると、認知度の質が高いほど UD の実践が意識されている傾向にある。



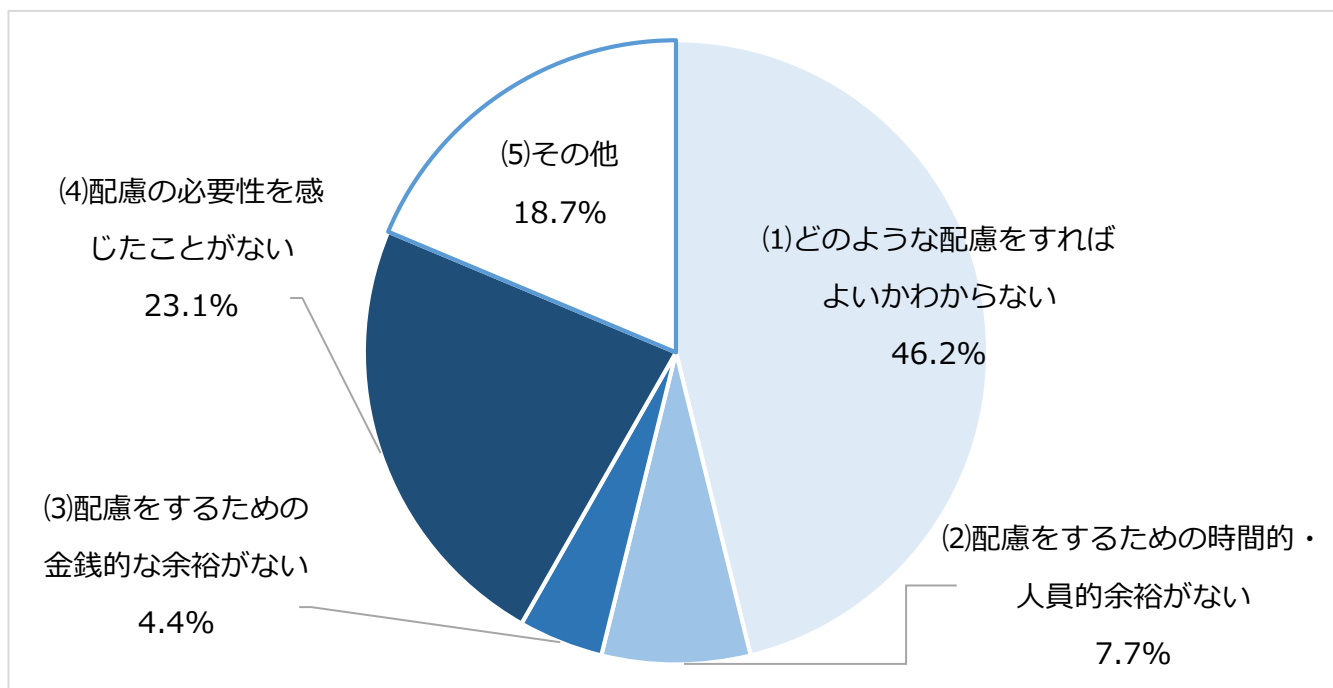
### ④ 配慮の具体例

設問の選択肢	実施した配慮
他への配慮を意識	車いす使用者、視覚障がい者、ベビーカー利用者等に配慮したユニバーサルデザインの「板橋型 BF ブロック」を道路工事に使用した。
	文書を作成する際には、高齢者や学習障がいの方でも見やすいよう、文字を大きくしたり、UD フォントを使ったりした。
	ホームページ作成時の字や絵の配色や配置。
意識せずつながった	温水プールにスロープを設置した。
	乳幼児は小さな段差にもつまづきやすいため、解消するよう配慮していたが、結果、高齢者の保護者や障がい者のための配慮にもなった。
	外国人向けにやさしい日本語の通知を作成したところ、高齢者や障がい者の方にも使うことができた。

## (6) 特に配慮したことがない理由

### ① 回答内訳

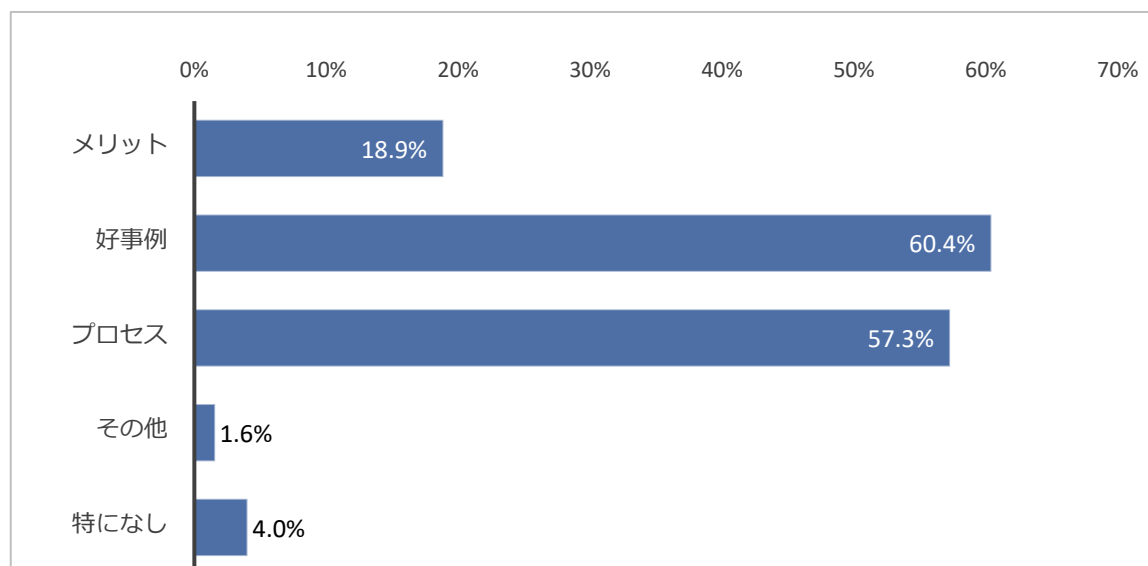
- 「(3) 多様な人に対して配慮した経験の有無」の設問において、「特に配慮をしたことがない」と回答した人の理由としては、「どのような配慮をすればいいかわからない」が46.2%と最も高い割合となった。



## (7) UD 実践のためにどんなことが知りたいか

### ① 回答内訳

- 「庁内や他自治体、民間等の好事例」と回答した人が60.4%と最も高く、「具体的なプロセスや注意事項」：57.3%、「取り組むことによるメリット」：18.9%と続いた。



## (8) 区のUDに関する取り組みで、参考になったもの

### ① 回答内訳

○「ガイドライン」が33.9%と最も高く、「UD ニュース」:22.4%、「気づくかな」:20.7%と続いている。

○一方、「ない」と回答した人の割合は22.1%となった。

